

さくら国際高等学校開校 米沢キャンパス開校理念

令和5年9月

特定非営利活動法人から・ころセンター

代表 伊藤正俊

特定非営利活動法人から・ころセンターは、活動を始めて約20年になります。

法人の目的は不登校やひきこもりに関しての諸課題に、当事者や家族の視点で解決する事を模索してまいりました。

現在、当事者を含むご家族の方々には「居場所」、「家族会」を提供し、心の拠り所になっております。

さて、ここに来て新たな問題が出てきました。

それは、不登校児童の増加の問題です。複合的に課題を抱えている子どもたちが全国的に増加しており、この置賜地域でもご多分に漏れず増えている現状です。

背景には様々な事情があるでしょう。しかし、そのままでよいとは思えません。

そこで、私たちは様々な情報の中で出来る事と言えば、学びの場や居場所として、通信高校の制度を利用する事が良いのではないかという事になりました。

通信高校の特色は「自分のペースで、学んでいく。」ことが出来るスタイルです。

生きづらさを抱えている子どもたちは、背景に様々な不快な体験をしており、(主にいじめ体験、家族からの虐待体験・困窮等) その心に傷を負いながら懸命に生きようとしています。

そのような体験を経験してきた子どもたちが、差別や排除等されることなく、安心して自分らしく学習できる環境が必要ではないかと思えます。

現代は「高校卒業資格」がないと就労する事がとても難しい社会環境です。

在籍3年(最長8年)の時間の中で、リ・スタートが出来るきっかけを作る事は社会的に求められる事ではないかと思えます。

さくら国際高等学校は長野県上田市に本校があり、キャンパス校(*1)が全国に31か所、学習センターが59か所、東北では仙台にキャンパス校が1か所あるだけで山形県では最初のキャンパス校になります。そして、学習センターは山形市、寒河江市、酒田市、新庄市に令和6年4月にオープン予定です。

米沢市はじめ置賜地域には通信高校がほとんど無く、県立霞城学園に米沢市及び近郊のほとんどの子どもたちが通っているのが現状で、通学や学習に負担が大きく卒業することが出来る子どもはほんの一握りと聞いております。

そのような現状を知り、当法人で何とかできないかと思いました。

皆さまのご協力がないと、実現できません。将来の自分の選択肢が増える事は、人生において、希望が見えて、生きる力に繋がるものと思えます。

皆さまと手を携えて、これからの子どもたちの人生が安心して送ることが出来る地域社会にしていきたいと思えます。

(*1) キャンパス校の役割

レポート回収後の採点、スクーリングの実施、特別活動、単位認定試験、全てキャンパスで実施できます。